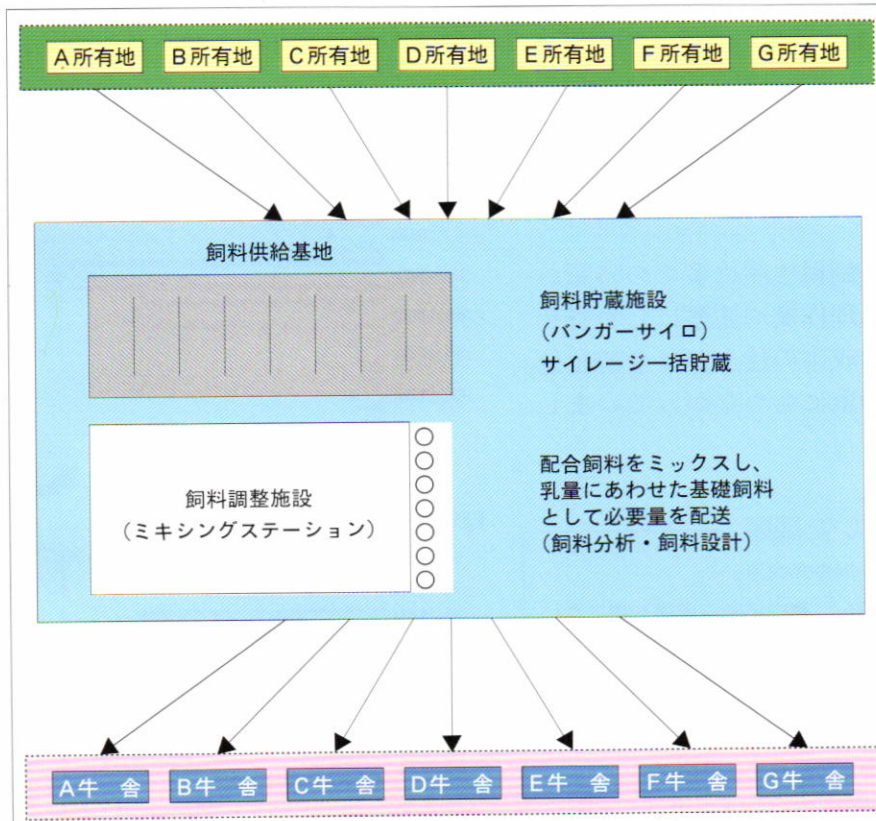


②システムの概要

草地管理に係わる一切の作業は組織で行うが、労働力は構成員でまかないます。毎日の作業であるTMRの調整・宅配については常時1名を雇用しています。



草地は一体的に管理し、肥培管理収穫、更新等一連の作業は組織として行い、経費についても組織が負担する。

収穫された牧草は組織が原料として引き取り、面積、収量を勘案し、原料費として支払う。

飼料供給基地の設置で、サイレージを一括貯蔵し、個別の飼料設計にあわせて基礎飼料を配合する。配合飼料は工場から直接搬送してもらう。大量注文のため割安になる！

ミックスされた飼料を各牛舎に配送する。

メリットと留意点

メリット

○労働面

- ・牧草地を20ha規模に集約することにより、作業効率が上がる
- ・女性は圃場作業に出なくても労働力が間に合う

○コスト面

- ・肥料・飼料は大量注文、大量輸送によりコストが下がる
- ・全体として機械の所有台数を減らせるため、機械費・修理費が軽減される

○飼養管理面

- ・TMRの給与により、乳量・乳成分の向上が期待される

○その他

- ・後継者がいない農家でも長期の営農が可能になる

留意点

- 内部分裂して、組織が崩壊したときのダメージがかなり大きい（精神的にも経済的にも）ので、内部調整が大事である
- 立ち上げの時点で綿密な検討が必要、このとき遠慮なく意見をぶつけ合うことが大事
- 大量注文、大量輸送に応じてくれる業者を検討する
- 不要な機械は処分させる
- 検討の結果決まったことは厳守する（勝手な行動はとらない）
- 平等性を保つこと（けんかの原因を作らない）

支援システムの利用Ⅲ（育成牛管理）

別海町中春別地域の酪農家6戸が、育成牛の管理を外部委託する「ギガファームグループ」を組織化しました。

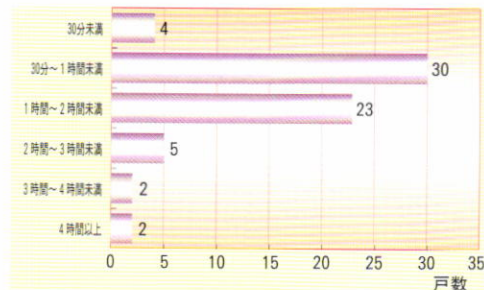
グループ内の一戸が経営転換してほ育・育成部門を請け負い、5戸の育成牛全頭を生後3日令から17カ月令まで一元管理するシステムを展開しています。

外部委託のきっかけ

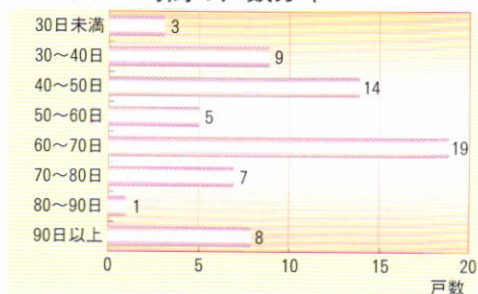
規模拡大に伴い、搾乳や粗飼料生産に多くの時間が費やされ、ほ育・育成牛の管理作業や観察にしわ寄せが来ていました。これが、育成牛の仕上がりがや初産分娩月令の遅れ、さらに労働過重にもつながっていました。

メンバーが抱えていた課題

- ★ 初産分娩月令が遅く、個体のバラツキが大きい
- ★ 離乳までに3カ月程度の日数を要し、育成技術に自信を持ってない
- ★ 高品質の育成牛を確保したい
- ★ 家族労働だけでは労働が限界で、作業効率を改善したい
- ★ 育成施設の不足や老朽化等、投資時期にきている
- ★ 労働力を削減し、搾乳部門に集中して生産性を高めたい
- ★ 家族で旅行に行くなど、余暇の時間を作りたい



ほ乳作業の時間の戸数分布



離乳に要する日数の戸数分布

H12.12 南根室管内の酪農家66戸調査より

ギガファームグループにおけるほ育・育成牛管理の外部委託グループの概要

平成12年12月に会員6名で組織化。

システムや役割分担、外部委託した場合の効果シミュレーション等の検討を重ね、平成13年6月6日から育成牛管理の外部委託が始まりました。

システムの概要

- ・受け入れ期間⇒⇒⇒ 分娩後3日令から17カ月令まで（受胎確認後の翌月引き渡し）
- ・生きている牛全てを受け入れる（奇形除く）

① 委託側の負担軽減

② ほ育牛の集中管理が可能

- ・ほ乳日数⇒⇒⇒ 20日間（スーパーほ育）
- ・免責期間⇒⇒⇒ 生後10日間
- ・料 金⇒⇒⇒ 23万円（税抜き）

ギガファームグループ個々の経営概要

農家名	飼養方式	経産牛頭数			生乳出荷量			平成12年12月1日 現在	
		現在 (頭)	計画 (頭)	伸び率 %	現在 (t)	計画 (t)	伸び率 %	草地面積 (ha)	労働力 (人)
A	フリーストール	135	200	148	1,058	1,600	151	100	3 (1)
B	フリーストール	95	120	126	728	1,000	137	100	2
C	フリーストール	145	300	207	1,300	3,000	231	120	6 (3)
D	フリーストール	100	120	120	890	1,200	135	60	3
E	スタンション	70	80	114	590	650	110	55	2
合 計		545	820	150	4,566	7,450	163	435	
平 均		109	164	150	913	1,490	163	87	3

注1) ()内の数値は雇用労働
注2) 計画は平成17年度末の目標値



ほ育舎内部